

総務省国立研究開発法人審議会（第14回）

1 日 時 令和3年8月11日（水）15時00分～16時15分

2 場 所 WEB会議にて開催

3 出席者

（1）委員（敬称略）

尾家委員（会長）、梅比良委員（会長代理）、
大場委員、尾辻委員、知野委員、藤野委員
（以上6名）

（2）専門委員（敬称略）

牛尾専門委員、大森専門委員、生越専門委員、小野専門委員、小塚専門委員、
小紫専門委員、篠永専門委員、末松専門委員、藤本専門委員、前原専門委員、
村瀬専門委員、森井専門委員、矢入専門委員
（以上13名）

（3）総務省

田原国際戦略局長、藤野大臣官房審議官（国際技術、サイバーセキュリティ担当）、
新田技術政策課長、吉田技術政策課研究官、古川技術政策課企画官、
藪井技術政策課課長補佐、山口宇宙通信政策課長、太田宇宙通信政策課課長補佐

4 議題

- （1） 令和2年度及び第4期中長期目標期間における国立研究開発法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価について
- （2） 令和2年度における国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務の実績に関する評価について
- （3） その他

開 会

【尾家会長】 それでは、ただいまから第14回総務省国立研究開発法人審議会を開催いたします。

本日はご多忙のところをご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

初めに、定足数の関係でございますが、委員6名中6名が出席されていらっしゃいます。定足数を満たしておりますことをご報告いたします。

また、専門委員の皆様にもご出席いただいておりますが、入澤専門委員、橋本専門委員、若林専門委員はご都合によりご欠席されていらっしゃいます。

ではまず、開催に先立ちまして、田原国際戦略局長にご挨拶をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

【田原局長】 皆様、お世話になっております。この夏に国際戦略局長に就任いたしました田原でございます。開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、総務省が所管しております2つの国立研究開発法人、NICT及びJAXAの令和2年度の業務実績評価、並びにNICTの第4期中長期目標期間の実績評価についてご審議いただく予定となっております。国立研究開発法人であるNICT及びJAXAは、一定の自主性、自律性を発揮しつつ、国が定める業務運営の目標である中長期目標を達成するため、自ら作成した中長期計画に基づき適正に業務を進めていただいて、研究開発成果の最大化を図ることが第一目的とされているところでございます。両法人には先進的な研究開発を推進しつつ、得られた成果を着実に社会へと展開、実装していくことが強く期待されております。両法人のPDCAサイクルをしっかりと回していくため、本日は閣下にご議論いただき、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。

尾家会長、梅比良会長代理をはじめ委員及び専門委員の皆様のご協力、ご指導をよろしくお願ひ申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

以上でございます。

【尾家会長】 田原局長、どうもありがとうございました。

本日は、本年4月10日付で委員及び専門委員の任命がなされまして初めての審議会となります。会の構成は、参考資料の参考国研14-10のとおりでございます。

申し遅れましたが、私はこのたび、総務省国立研究開発法人審議会令4条第1項に基づき、会長に選出されました尾家でございます。何とぞよろしくお願いいたします。

それでは、今年度最初ということですので、簡単にご挨拶させていただきたいと思いません。

先ほど田原局長からお話がありましたが、本審議会は、総務大臣が国立研究開発法人に係る中長期目標の設定、毎年度の評価などを実施する際に意見を述べることを目的とした重要な審議会と認識しております。

PDCAサイクルをより有効に回すことで、各法人による研究開発成果の最大化が図れるように、適切・有益な意見を総務大臣に述べるのが本審議会に与えられた任務と認識しておりますので、委員、専門委員の皆様におかれましては、何とぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。

また、会長代理には梅比良委員が選出されておりますので、一言自己紹介をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【梅比良会長代理】 南山大学の梅比良でございます。このたび、会長代理に選出していただきました。

尾家会長がおっしゃられたように、この審議会は国立研究開発法人のJAXAとNICTの業務実績を評価するとともに、今後ますますいい成果が出るように、また社会実装等成果の最大化ができるような格好で助言できるようなことができればと思います。

また、委員の皆様には今後とも引き続きご協力いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

【尾家会長】 ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

それから、これまで委員を務めていただいております藤井さん、水野さんはご退任となりまして、専門委員を務めていただいております尾辻さん、藤野さんが委員に任命されていらっしゃいます。また、新たに牛尾さん、篠永さんが専門委員に任命されていらっしゃいます。

そこで、新たに委員とされました尾辻委員、藤野委員、そして専門委員とされました牛尾専門委員、篠永専門委員から、一言ずつ自己紹介をいただきたいと思えます。

まず、尾辻委員、お願いします。

【尾辻委員】 東北大学電気通信研究所の尾辻でございます。お世話になっております。

昨年度まで専門委員としてに任に当たっておりましたが、今年度から委員としてこの任に当たらせていただきます。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

【尾家会長】 よろしく申し上げます。

藤野委員、お願いいたします。

【藤野委員】 東洋大学の藤野でございます。

私も昨年度まで専門委員として、主にJAXA部会のほうを担当させていただきましたけれども、今年度は委員ということでございまして、今後ともよろしくお願いいたします。

【尾家会長】 よろしくお願いいたします。

それでは、牛尾専門委員、お願いします。

【牛尾専門委員】 このたび、新たに専門委員として就任いたしました、大阪大学大学院工学研究科の牛尾と申します。分からないことも多いかと思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

【尾家会長】 よろしくお願いいたします。

続きまして、篠永専門委員、お願いいたします。

【篠永専門委員】 東洋大学の篠永と申します。今年度より専門委員ということで参加させていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

【尾家会長】 ありがとうございます。皆さん、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局から総務省の人事異動のご紹介と配付資料の説明をお願いいたします。

【藪井課長補佐】 事務局の藪井でございます。

総務省側でも、この夏、体制の変更がございました。各部会では既に一部お知らせしておりますが、改めてご紹介させていただき、一言ずつご挨拶申し上げたいと思います。

国際戦略局長の田原からは先ほどご挨拶申し上げましたので、続きまして、新田技術政策課長でございます。

【新田課長】 7月1日付で技術政策課長に着任いたしました新田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

【藪井課長補佐】 そして、山口宇宙通信政策課長でございます。

【山口課長】 宇宙通信政策課長の山口でございます。先生方には、いつもとてもお世話になってございます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

【藪井課長補佐】 また、本日は所用により欠席させていただいておりますが、同じく国際戦略課長として大森が着任しております。

以上の体制で進めてまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、本日の会議資料の確認をさせていただきます。今回もウェブ開催ということで、事前に電子ファイルでお配りさせていただいております。ファイル構成は、ナンバー

で申し上げますと00から12まで、そして99の合わせて14点となっております。なお、ファイル08は非常に大部のため、ダウンロードアドレスによるご案内とさせていただきます。不足がございましたら事務局までお申しつけください。

また、傍聴の皆様方には事前にダウンロードのためのアドレスをお送りしておりますので、そちらからご入手ください。

なお、本日は総務省国立研究開発法人審議会議事規則第7条に基づき公開となっておりますので、本日の議事録についても、後日ウェブサイトに掲載させていただく予定となっております。

続きまして、内容のご案内です。ファイル00が本日の議事次第となっております。2枚目に配付資料一覧を掲載しております。ファイル01と02、資料国研14-1と14-2が本日のご説明資料となっております。資料国研14-1がNICTに関する資料、14-2がJAXAに関する資料でございます。基本的にはこの2点でご説明いたしますので、会議システムによる投影画面がご確認いただけない場合は、お手元のファイルを開いておいていただければと思います。ファイル03から12は参考資料となっております。必要に応じて適宜ご参照ください。そして最後、ファイル99は出席者一覧となっております。

資料は以上です。ファイルの破損等がございましたら、会議中でも結構ですので事務局までお知らせいただければと思います。

事務局からは以上でございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。

それでは、ご手元の議事次第に従って議事を進めてまいりたいと思います。本日は2件でございます。

議 題

- (1) 令和2年度及び第4期中長期目標期間における国立研究開発法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価について

【尾家会長】 議題1、令和2年度及び第4期中長期目標期間における国立研究開発法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価について、事務局より説明をお願いいたします。

【藪井課長補佐】 事務局、藪井でございます。

それでは、ファイル01をお開きください。資料国研14-1、こちらは直前まで差し替えが発生しましたことをお詫び申し上げます。こちらに基づき説明させていただきます。

表紙をおめくりいただきまして1ページ、令和2年度におけるNICTの業務実績に関する評価案の概要でございます。NICT部会において、4日間にわたる密度の濃いヒアリング、及び2回の活発なご審議をいただきました結果をこちらに取りまとめております。

まず、全体の評価はA。「NICTの目的・業務、中長期目標等に照らし、総合的に勘案した結果、研究開発成果の最大化に向けて顕著な成果の創出や将来的な成果の創出の期待等が認められる」というものです。これは100点満点で言えば、おおむね120点以上ということになります。

続きまして、Aというご評価をいただきました経緯をご説明申し上げます。

部会において議論いただきましたポイントが、次の法人全体に対する評価の要旨でございます。最も大きなポイントは、箇条書1つ目ですが、NICTにおいて重要度が高いとされる5つの研究分野について、AやSと評価されるような顕著な成果が出ていることが挙げられました。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症により、例えば脳研究のような多数の対面での実証などを要する研究開発分野においては、思うように研究が進められない厳しい1年となりましたが、そうした環境要因も考慮したものとなっております。

具体的な成果は、箇条書2つ目に要旨として記載してございますが、ここで一旦、2ページをご覧いただきたいと思います。

先ほど申し上げました重要度の高い5つの分野が、こちらに記載の項目No. 1から5の5つの分野を指しております。卵色になっております部分が項目の評価となり、白い部分に当たります小項目ごとの評価を総合したものとなっております。左側がNICTの自己評価、右側がNICT部会における評価・評価となり、今回ご裁定いただく案となります。いずれも、AまたはSといった高いものとなっております。

具体的には、No. 1のセンシング基盤分野では、時空標準技術において、VLBIによる日本・イタリア間の光格子時計の比較実験や、チップスケール原子時計への新規固体ルビジウム源の適用、構成部品の高性能化への取組とともに、東京から神戸のマスタ切替え運用についても訓練を実施し、大規模災害時の安定運用を図りましたことなどから、A評価。

No. 2の統合ICT基盤分野では、フォトニックネットワーク基盤技術において、標準外径15モードの光ファイバによる世界初の1ペタbps超伝送の成功、コア単位スイッチングが可能な12コア光ファイバ向けの低損失光スイッチの開発等、数多くの研究成果が主要な国際会議や論文誌で採択されましたことなどから、こちらもA評定。

なお、No. 2では小項目の最後、衛星通信技術について、NICTでは自己評価をBとしておりましたが、年度計画には記載のなかった民間主導の共同体であるスペースICTフォーラムを設立し、その下の衛星5G/Beyond 5G連携技術分科会における活動により競争力の強化につなげたこと、またETS-9搭載用10ギガbps級の超高速光通信ターミナルビーコンについては、設計審査まで終了するなど、計画以上の進捗を見せたことなどが評価され、Aとなりました。

No. 3のデータ利活用基盤分野では、音声翻訳・対話システム高度化技術において、多言語音声翻訳技術の新たな技術移転により、多言語音声翻訳プラットフォームのサービス提供や、音声翻訳システムの商用化が拡大しており、高精度化した翻訳技術や翻訳方向の自動判定機能、言語識別機能などを、皆様もご存じのVoiceTra、TexTraに実装し、機能を大幅に向上させ技術移転を行い、多数の製品・サービスの商用化につなげたことなどから、S評定。

No. 4のサイバーセキュリティ分野では、Web媒介型攻撃対策プロジェクトWarpDriveにおいて、延べ43億件のユーザーアクセスログを収集し、悪性URLに到達する経路上にある個々のドメインのリスクレベルを計算する手法を考案。これにより開発されました、リスクの高いドメインの通信を遮断し、ユーザーを保護する技術はTire-2国際会議RAID2020で採択され、さらに詳細分析結果をまとめた論文は、CSS2020において優秀論文賞を受賞したことなどから、S評点。

なお、No. 4では、小項目2番目のセキュリティ検証プラットフォーム構築活用技術について、NICTは自己評価をSとしておりましたが、こちらについては、確かに、複数の粒度や形式の異なるサイバーセキュリティシステムを構築し、改善させているという点で、計画を超えた既存の枠組みの充実を行ったとはいえものの、特に顕著といえる新たな成果といったものは見られないということで、Aとなりました。

そして5分野の最後、No. 5のフロンティア研究分野では、新規ICTデバイス技術において、横型酸化ガリウムトランジスタへの高濃度鉄イオン注入ドーピングによるドレインリーク電流の大幅低減に成功したほか、深紫外LEDにおける世界最高の光出力650ミリワット

超を達成し、また、フロンティアICT領域技術において、昆虫脳の回路を雄型から雌型に切り替える分子スイッチを発見したことなどから、A評定でした。

また、国立研究開発法人の第一目的である、No. 6の研究開発成果を最大化するための業務では、どれもおおむね計画どおりの進捗としてBとしておりますが、最後から2番目のサイバーセキュリティに関する演習につきましては、NICTの自己評価がSとなっていたものをAとしています。これは、実践的なサイバー演習であるCYDERやサイバーコロッセオなどを完全オンラインによる開催としたことや、計画を前倒して実施したことなどは、年度計画以上の成果を出していると思われるものの、特に顕著な革新的事実があったかという、そこまでには至らないということで、Aとなっております。

では、1ページにお戻りいただきます。

法人全体に対する評価、箇条書3つ目は、業務運営に関してです。こちらは年度計画どおり着実に進めていただいているということで、4つございますが、いずれもBとなっております。

その他、NICTに対して全体的な意見や改善等を求めるものが部会において提示されました。「審議会の主な意見」としているものです。

こちらでは、権威ある論文誌や国際会議における論文採択の多さや、コロナ禍での安定したマネジメントとその成果の高さを評価するとともに、基礎研究や国際標準化などへの資源配分や、技術移転後の移転先への続いて、ご提言をいただいております。

令和2年度の説明については、以上です。

続きまして、第4期中長期についてご説明申し上げます。3ページをご覧ください。第4期中長期目標期間におけるNICTの業務の実績に関する評価案の概要でございます。こちらは、平成28年度から令和2年度までの5年間の期間の総括評定となります。

総合評定は、Aでございます。先ほど1ページの冒頭に、平成28年度からの総合評定を並べさせていただきました。こちらはいずれも、Aとなっております。また、令和2年度と同様、項目ごとの評定を総括しましても、Aが妥当であるとのことをご裁定をいただいております。

それでは、Aという評定をいただきました経緯を説明申し上げます。まず、「法人全体に対する評価」をご覧ください。箇条書1つ目では、期間中、特に重大な課題はなく、やはり重要度の高い5分野について、顕著の成果があったことが認められる旨、記載がございます。

具体的な成果の要旨が箇条書2つ目です。先ほどと同様、4ページをご覧いただきながら説明したいと思います。

No. 1、センシング基盤分野では、宇宙環境計測技術において、太陽フレアの予測にAI技術を利用した太陽フレア発生確率予報システムを開発・運用を開始したほか、太陽放射線被ばく警報システムWASAVIES（ワサビーズ）を開発し、実運用システムとして外部公開。また、宇宙天気予報業務の24時間化を実現したことなどにより、A評定。

No. 2、統合ICT基盤分野では、光通信デバイス分野において多くの世界トップレベルの研究成果を継続的に創出。また、産学連携の下、成田国際空港及びマレーシアのクアラルンプール空港においてリニアセルレーダシステムの社会実装につながる取組を実施したり、北陸新幹線とミリ波による1.5ギガbpsの世界最大級の大容量伝送実験に成功したりといった実績により、A評定。

No. 3、データ利活用基盤分野では、脳情報通信技術において、脳情報解読技術、fMRIやBMIを利用した脳活動計測技術、脳の情報処理メカニズムの解明など脳情報に関する幅広い分野で高い研究成果を上げ続けました。扁桃体の脳活動パターンからうつ病傾向を高精度に予測する技術や、脳情報解読技術の企業へのライセンス供与によるニューロマーケティング技術の商用サービス化への貢献、脳波のニューロフィードバックトレーニングを利用した英語学習アプリの民間企業との共同研究・開発など、特に顕著な成果が評価され、S評定。

なお、この脳情報通信技術は、No. 3の最後の小項目です。NICTは自己評価では、コロナ禍で実証が進まず、脳活動のモデル化の面で特に顕著な成果が出なかったとして、A評価としていますが、コロナによる影響は考慮し、それ以外の期間中の成果も特に顕著であったとして、S評価となっております。

No. 4、サイバーセキュリティ分野では、機能性暗号技術において複数の技術提案を行い、最高峰の国際会議での採録、論文賞受賞など、数多く高い成果を上げました。また、機密データを開示することなく複数機関で連携した学習が可能なシステムについて、不正送金検知に適用するため、銀行など複数の金融機関と実証実験を行い、社会実装に近い状態まで進んでいるほか、耐量子計算機暗号の安全性評価においても世界記録を複数回達成しているなど、特に顕著な成果があるとして、S評定。

なお、このサイバーセキュリティ分野では、令和2年度と同様、セキュリティ検証プラットフォーム構築活用技術において、NICTの自己評価Sに対し、NICT部会ではAの評価と

なっております。こちらサイバーセキュリティの強化に向けた数多くの取組は顕著なものとはいえものの、極めて顕著なといえるほど革新的な成果とまではいえないということで、A評価となっております。

No. 5、フロンティア研究分野では、量子鍵配送プラットフォーム技術において、量子鍵配送に秘密分散の技術を活用した分散ストレージシステムの原理実証に世界で初めて成功。また、量子ノード技術に関し、世界最高速の量子光源の実現、イオントラップ技術を応用した量子通信基礎実験を成功させたほか、一般社団法人量子ICTフォーラムの設立を主導し、量子通信のコミュニティでリーダーシップを発揮してコミュニティ形成に大きな貢献をするなど、顕著な成果を数多く創出し、A評定。

また、国立研究開発法人の第一目的である、No. 6の研究開発成果を最大化するための業務では、令和2年度と同様、「サイバーセキュリティに関する演習」が、NICTの自己評価と部会におけるご裁定とは異なっております。こちら、5年間の期間中、演習に関しては計画以上の進捗と成果をいただいておりますが、極めて顕著とまではいえないということで、A評価となっております。

では、3ページにお戻りいただきます。

法人全体に対する評価、箇条書3つ目の業務運営は、期間中、コロナ禍がございましたが、中長期計画記載の業務について着実な運営をまいりました。4つの項目、いずれもBとなっております。

続きまして、審議会の主な意見です。こちらでは、論文の雑誌などへの掲載が引用数にも反映されることが期待されることや、社会的アピールの必要性、社会実装の加速についてご指摘いただいております。また、国立研究開発法人としての経費の使用方法について、研究開発を過度に圧迫していただきたくないというご要望、そして社会情勢的に華々しくない分野についても成果が出ているものについては、成果最大化の支援を行うべき、といったご提言をいただいております。

令和2年度、そして第4期中長期ともに貴重なご意見をたくさんいただきました。ありがとうございました。

第4期中長期の説明は以上ですが、1点、補足でございます。この3ページ、そして1ページの法人全体に対する評価につきましては、「要旨」と書かせていただいておりますとおり、特に箇条書の2点目は、かいつまんでの記載とさせていただきます。今し方、ちょっと口頭では説明させていただきましたが、その内容は、具体的には5ページ以

降に記載してございます。こちら、個々の項目について、部会のほうでコメントをいただいたものを採録させていただいているものとなっております。

実際に大臣意見として書き下ろします文章については、先ほど要旨で述べさせていただいたものと同じ項目について、こちらのコメントからそれぞれ抜粋させていただきたいと思います。ご了承いただければと思います。

説明は以上でございます。NICTの令和2年度及び第4期中長期の総合評定について、案のとおりとしていかどうかご裁定いただきたく、また、審議会のご意見として追加するようなコメントがあれば、合わせてご教示いただきたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

【尾家会長】 ありがとうございます。

今、説明がございましたように、NICTは昨年度ちょうど第4期の最終年度に当たりましたので、令和2年度の評価と、第4期中長期目標期間における評価の2つがございます。この説明につきまして、ご質問、ご意見などがございましたらお願いいたします。

【藤野委員】 東洋大学の藤野でございます。

評価書の17ページの一番下のポチでございます。ICT人材の育成の取組という形ございまして、確かに人材育成というのは非常に重要なことだと思いますけれども、そういう意味ではNICTの第一義的なミッションとは若干異なるかなという具合には思っております。

ただ、機構の研究者23名を講師として派遣したことは評価できるという具合に書いておりますけれども、ここの部分で、例えば資料の4番です。14-2の第4期中期計画の業務実績自己評価書の274ページをご覧くださいますと、この受入人数というのが年々減ってきているという形ございまして、人材育成に関しては、確かに数的には結構多くなっているんですけども、少しずつ減ってきているということにつきまして、やはり何らかの形で注記をつけたほうがいいのかという、そういうところを若干懸念してございます。

私からの意見は以上です。

【尾家会長】 ありがとうございます。

ただいまのご意見に対しまして、どなたか回答していただけますでしょうか。

【藪井課長補佐】 事務局藪井でございます。ありがとうございます。

こちらの人数がだんだん減っているというところについて、何らか説明をしたほうがよいのではないかとのご意見ということでもよろしかったでしょうか。

【藤野委員】 そのとおりです。年々若干減っている傾向にありますので、この部分を評価してよいという見解でよろしいのでしょうか。

【藪井課長補佐】 かしこまりました。特に令和2年度に関しましてはコロナの影響もございまして、物理的にちょっと人数が減ってしまったというところはあるんですが、それを差し引きましても、確かに少しずつ減少しているというのは数値として表れておりますので、いただきましたご意見につきまして、NICTのほうにお知らせするという形にさせていただきますしたいと思います。

特にこちらについて、ご評価のほうで何かということではないということによろしいでしょうか。

【藤野委員】 そうです。評価訂正というよりは、この部分について、年々減っていることに対して何らかのフォローアップとか何かしたほうがよろしいんじゃないでしょうかということを、NICT宛てに伝えていただければと思います。

【藪井課長補佐】 かしこまりました。ありがとうございます。申し伝えます。

【尾家会長】 ありがとうございます。この取組に対して、ある一定の成果を上げてきているからそうなっているのか、その辺りをNICTに確認させていただきたいと思います。ありがとうございます。

【知野委員】 すみません、知野ですが、1つよろしいでしょうか。

1点質問させていただきたいのですが、データ利活用の脳情報通信技術のところ、非常にマーケティングなど社会実装されてきているという、非常に技術が使われてきているというお話があるんですけど、一方で、どこまで進めていいのかと、例えば使われている側が知らないうちに進めているとかそういうことはないかという点がやはり気になりますので、組織としての倫理指針であるとか、歯止めとか、何かそういうものは考えておいでなんですか。もしそういうものがあるのでしたら、この評価書にもちょっと書き加えていたほうがいいのではと思いましたので、その質問です。

以上です。

【尾家会長】 ありがとうございます。

この脳情報通信技術に関しまして、倫理指針を立てて行っているかということですが、事務局、何か一言説明を。

【古川企画官】 事務局でございます。技術政策課の古川でございます。

今、ご指摘いただきました件なんですけれども、こういった脳の関係の研究をしていくということに関して、NICTのほうでも倫理の関係をいろいろ審査して研究開発をやっているということですので、その辺りはNICTのほうも確認しながらやっているところでございます。

以上でございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。

そういう倫理指針をもって実施している旨を何らかの形で表記したほうがいいんじゃないかということですが、この辺りも何か工夫できるようでしたら、また事務局で検討をお願いいたします。

そのほかに何かございますでしょうか。

【梅比良会長代理】 梅比良ですけれども、よろしいでしょうか。

個々のというよりは、この評価書で意見をたくさん書いてあるところがあるんですけども、その中に、将来的な成果の創出の期待が認められるというのが理由になっていて、それがちょっと気にかかります。というのは、業務実績に関する評価なので、期待に対しての評価を理由に入れるというのがいいのかどうかというのがちょっと気になるんですけども、その辺についてはどのようなお考えでやられているのか、ちょっと教えていただければと思います。

JAXA部会の中でも、実績なので、いわゆる何かエビデンスがある程度あるものを理由にすべきで、そういう期待みたいなことでやるのはあまりよくないんじゃないかという議論もありましたので、どのような格好になっているのかご意見をいただければ、よろしくお願いたします。

【尾家会長】 ありがとうございます。今の将来的な成果の創出の期待の直前に顕著な成果の創出、特に顕著な成果の創出ということを書いた上で、そういうことをつけようということになったと思いますが、この辺り、事務局から何かございますでしょうか。

【古川企画官】 事務局でございます。

今、先生からご指摘いただきました記載の件でございますけれども、主にこういった実証事業といいますか、実験的なところをやっていたときに、その成果というのがその直後ではなく、将来にわたって成果が出ていこうというのを期待して、評価書の書きぶりとしてこういった書きぶりにしているところがございます。

【梅比良会長代理】 ありがとうございます。JAXA部会の中でも似たような話があって、技術ができたというのがすばらしいかどうかというので評価するという話と、あと普及の過程の中ではある程度、何件出たとか、事業規模としては小さいけれども、そういうように件数が増えている、そういうような格好で、やっぱりなるべくエビデンスベースでの評価にしたほうがいいんじゃないかという意見がございましたもので、そういうような格好で質問させていただきました。

期待というのを理由にすべきではないという意見ではないんですけれども、そういうことで意見を、できれば評価の目線とかをなるべく合わせたほうがいいかなと思いましたが、でちょっと意見させていただきました。

【尾家会長】 ありがとうございます。

そういった意味では、評価に関しては実績に基づいて、特に顕著な成果の創出というところの文章で示しているかと思えます。そこで終わらせるという選択肢もあったかと思えますが、それに加えて今後に期待するということですので、評価としては多分同じ土壌かなと思えます。取組において、特に顕著な成果の創出があったので、ある評価になったという意味では、そのあとの将来の期待について付け加えるかどうかというところですね。

【梅比良会長代理】 これ自体は、評価自体の結果についてどうのこうのというわけではなくて、理由として期待を入れるかどうかという話かなと思えます。

どうもありがとうございました。

【尾家会長】 ありがとうございます。そういう意味では、理由は「特に顕著な成果の創出」というところで多分終わっているのではないかなと思えます。

事務局、そういう理解でよろしいですか。

【尾辻委員】 よろしいでしょうか。

個々の分野等の項目における評定につきましては、全く異論はございません。

それで今、全体を通してこの評価書を眺めてみたときに、私の観点はミリ波、テラヘルツ波領域がBeyond 5Gとして、NICTの委託研究公募で大きく今、日本としてプロモートしている段階なんですけれども、それぞれの分野の中で関連する研究開発については、それとの相関が非常に強い顕著な成果が多く出ていると私自身認識しているんですが、この評価書の中にBeyond 5Gとの関連をエクспリシットに表現しているところは逆にあまりないんです。それで、ざっと俯瞰いたしますと、総合ICT基盤分野の衛星通信技術ですとか、それから研究開発成果を最大化するための業務、例えば標準化活動等、そういったところで

は関連性がうたわれているんですけども、例えばフロンティア研究分野、新規ICTデバイス技術ですとかフロンティアICT領域技術等については関連性が深いんですけども特にそういった記述がないということで、若干トーンが平滑化できるとよかったかなと、今少し全体を通して感じた意見を述べさせていただきました。

【尾家会長】 ありがとうございます。第5期において非常に重要なBeyond 5G/6Gとの関係についても、もっとこの中で記述してはどうかということのご意見でございます。特にフロンティアICTあたりにあまりなかったですねということで、このあたり、事務局、何かございますか。

【古川企画官】 事務局でございます。

まず、この1つ前にご意見をいただきました将来的な成果への期待の記述の仕方の関係でございますけれども、尾家会長からもおっしゃっていただきましたとおり、成果としては特に顕著な成果の創出があったという書きぶり、成果といいますか結果としては書く。さらに加えて、将来的な成果の創出の期待が認められることが分かるように記載ぶりをご相談させていただければと思います。

今、ご指摘いただきましたBeyond 5Gの関係で申しますと、今回評価いただいたのは令和2年度、また第4期中長期目標の評価ということで、Beyond 5Gの推進の関係では令和2年度途中からこういったBeyond 5Gに特化したようなお話が出てきたところでございまして、そういう意味でいいますと、研究開発の分野全体に当たりまして、統合ICT基盤分野であったり、フロンティア研究分野であったり、このBeyond 5Gにつながっていく研究開発は関連の研究開発がなされてきたというところございまして、主に第5期で、まさに今期でそういったBeyond 5Gの研究開発を進めていくということになってございます。ただ、今キーワードとしてもう少しというお話もございましたので、記載ぶりにつきましてはまたご相談させていただきたいと考えております。

以上でございます。

【尾家会長】 尾辻委員、いかがでしょうか。

【尾辻委員】 ありがとうございます。よろしく願いいたします。

【尾家会長】 それでは、今説明ありましたようにBeyond 5G/6Gは第5期の重要な課題なんですけど、第4期においてもそれらの研究の準備が良好に進められたという辺りを何か追加できればと考えます。ありがとうございます。

何かそのほかにご意見、ご質問はございませんでしょうか。

【生越専門委員】 すみません。東京理科大学の生越と申します。

今回の審議会の主な意見のところで、「基礎研究・論文発表・標準化活動などを、より一層バランスよく展開してほしい」と書いてあるんです。まさにこのとおりなんだと思うんですけども、特に標準化について、後ろのほうの資料を拝見すると、標準化活動に参加したとか、議定書とかペーパーが一部通ったとかそういうことが書いてあります。ただ、それだけで標準化の成功とはなかなかいえないんじゃないかということで、Beyond 5Gとか6Gを鑑みますと、標準化活動というのはすごく時間のかかる息の長い活動で、これに対してこちらの機構がどのように今後アプローチすると考えているのか、それを教えていただければと思います。評価について問題があると言っているわけではありません。

以上です。

【尾家会長】 ありがとうございます。今のご指摘のように標準化活動は非常に長い活動になりますので、その長期的活動についてNICTがどのような指針を持っているかとか、その辺りで何か事務局からございますでしょうか。

【古川企画官】 事務局でございます。ご質問ありがとうございます。

今、まさに委員からご指摘いただきました、例えばこういったBeyond 5Gといった先進研究分野において、研究開発をやっていく段階からこういった標準化のことを視野に、またその先のビジネスも含めたことを念頭に置きながら研究開発を進めていくということが大事になってくるかと思えます。まさにこの標準化はこれから進んでいまして、またBeyond 5Gでいいますとこのビジョンといったもの、スコープといったものも含めてこれから標準化してまいりますので、研究開発の成果をしっかりとそれにつなげていくよう取り組んでいくものと認識しております。

以上でございます。

【尾家会長】 生越委員、いかがでしょうか。

【生越専門委員】 ありがとうございます。ぜひ戦略的な標準化をしていただければと思います。できればNICTの中にそういう担当者を張りつけるぐらい。といいますのは、今はダイムラーとノキアの訴訟が日経新聞などで報道されていますけれど、コネクテッドカーとか、コネクテッドハウスが全部5G、6Gのターゲットにされていきますので、ぜひそこら辺の戦略をつくっていただければと願っております。

以上です。

【尾家会長】 ありがとうございます。

第5期で、Beyond 5G/6Gの標準化ですとかビジネスあたりについて検討する何かの組織ができたのではなかったですか。いかがですか。

【古川企画官】 総務省でございます。

Beyond 5Gの標準化、知財戦略に関しましては、新経営戦略センターというもので、こちらはNICTの外にある組織ですけれども、戦略的に研究開発の段階からそういった将来のビジネスも含めて知財・標準化戦略を検討していくという組織を立ち上げてございますので、こういったものを中心にそういった知財・標準化の戦略、さらにその先のものを進めてまいりたいと考えているところでございます。

【尾家会長】 大変有益なご指摘、ありがとうございます。NICTに対しましても、そのような知財戦略の重要性に関して委員の方からご指摘があった旨をお伝えいただければと思います。

【生越専門委員】 よろしくお願ひします。ありがとうございました。

【尾家会長】 ありがとうございます。

そのほかに何かご質問、ご意見はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、大変貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。NICTの令和2年度第4期中長期目標期間における業務実績評価に対する意見をたくさんいただきまして、本日の審議結果を踏まえまして取りまとめたいと思います。

具体的な修正内容に関しましては、別途事務局において調整いただいた後、会長である私に一任させていただきたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【尾家会長】 ありがとうございます。

それでは、そのように進めさせていただきたいと思います。

(2) 令和2年度における国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務の実績に関する評価について

【尾家会長】 それでは、続きまして、2番目の議題です。令和2年度における国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務の実績に関する評価につきまして、事務局より説明をお願いします。

【太田課長補佐】 JAXA部会の事務局を務めております、宇宙通信政策課の太田と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

資料につきましては、国研14-2の「令和2年度における国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の業務の実績に関する評価について」に基づきましてご説明させていただければと思います。また、参考資料につきましては、議事次第にございます参考国研14-6から14-9となっております。適宜ご参照いただければと思います。

それでは、資料国研14-2の1ページ目をご覧ください。JAXAの評価につきましては、先ほどご議論いただきましたNICTの評価とは若干異なりまして、平成30年から7年間という期間で第4期中長期目標期間に入っております。本年度は2020年度ということでその3年目ということで、今回については年度評価のみとなっております。

また、JAXAの評価についてでございますが、総務省に加えて内閣府、文部科学省、経済産業省の4府省の共管となっております。NICTのときには全体の評定というものが資料にあったかと思いますが、JAXAの評定につきましては、各府省にある審議会からのご意見をそれぞれの府省でいただいた後に、共管の4府省で協議の上、大臣評定を下すという形となっております。そのため、JAXAの全体評定につきましては4府省の協議の結果で決まるものでございますので、ここでは記載しておらず、個別の項目に対しての自己評価及びそれに対する部会の意見案ということでお示ししているものでございます。

資料の具体的な説明に移らせていただきたいと思います。資料の総括の部分についてご説明させていただきます。JAXAの自己評定でございますが、おおむね部会では妥当というご意見をいただいているところでございます。ただし、こちらにお示ししている3項目については、自己評定とは異なる評定が妥当と部会でご意見をいただいているところでございます。

この異なる項目についてでございますが、2つ目の自己評価に対する主な意見（案）というところで、部会でいただいたご意見とともに簡単にご説明させていただきたいと思っております。なお、こちらの自己評価に対する主な意見（案）のところに記載させていただいているご意見につきましては、部会でいただいている意見を抜粋しているものでございます。そのため、詳細につきましては3ページ目以降に記載してございますので、そちらをご確認いただければと思っております。

それぞれのご意見についてご紹介させていただいていきます。1点目、「民間事業者との協業等の宇宙利用拡大及び産業振興に資する取組」でございます。こちらはJAXAの自己評価Aのところ、部会案ではBが妥当ではないかのご意見をいただいているところでございます。

その理由といたしましては、KIBO宇宙放送局、防災分野における新たな食ビジネス、アバター技術による宇宙関連技術などの新たな事業を数多く手がけているが、まだ大きな協業の成果が出ていないとまではいえないと。そのため、評価としては時期早尚であり、B評価が妥当ではないかのご意見をいただいているところでございます。

続きまして、2点目の「宇宙政策の目標達成に向けた分野横断的な研究開発の取組」でございます。こちらは、先ほどご説明させていただきました民間事業者との協業等の宇宙利用拡大及び産業振興に資する取組という項目と、新たな価値を実現する宇宙産業基盤・科学技術基盤の維持・強化（スペース・デブリ対策、宇宙太陽光発電含む）といった項目を総括した項目になってございます。こちらは、JAXAの自己評価Sのところ、部会ではAが妥当ではないかのご意見をいただいているところでございます。

その理由といたしましては、JAXAの保有する技術を活用して、民間技術の事業支援を行った点、将来につながる芽を育てているということは評価できるが、Ⅲ.4.1の民間事業者との協業等の宇宙利用拡大及び産業振興に資する取組、及びⅢ.4.2の新たな価値を実現する宇宙産業基盤・科学技術基盤の維持・強化の部会評価を踏まえると、全体としてはA評価が妥当ではないかというご意見をいただいているところでございます。

今までご説明させていただきました2点につきましては、自己評価から一段階下げた評価が妥当ではないかというご意見を頂戴していたところでございますが、3点目、「プロジェクトマネジメント及び安全・信頼性」でございます。こちらはJAXAの自己評価Aのところ、S評価が妥当ではないかと部会でご意見をいただいているところでございます。

その理由といたしまして、ASTRO-Hの失敗を契機としたプロジェクトマネジメント及び安全・信頼性の改善、リスク低減活動への継続的な取組の結果、はやぶさ2のエクストラサクセスをはじめとして様々な成果が出たことを高く評価すると部会でご意見をいただいているところでございます。

そのほか、下に移りまして法人全体の評価に関する主な意見でございますが、「宇宙の産業構造が大きく変化しているなか、一般管理費や人件費などの制約条件が限界近くまで達し、人的なリソースも厳しい状況を鑑み、持続的な研究開発活動を維持するため、競争的研究資金の獲得や増収施策を考えるとともに、JAXAと民間等との役割を整理し、将来に向けた業務の模索が必要ではないか。改めてJAXAの活動の戦略についてグランドデザインしていただきたい」といったご指摘や、「コロナ禍において、引き続き感染症対策を進めつつ、日本の基幹技術となるH3ロケットなど計画どおりに進捗できるよう業務を実施いただきたい」といったご指摘をいただいているところでございます。

続いて、2ページ目をご覧ください。令和2年度におけるJAXAの業務の実績に関する評価の全項目に対する自己評定と、部会での評定案の一覧になってございます。先ほど説明させていただきましたとおり、おおむね自己評定が妥当として評価いただいているところでございますが、Ⅲ.4.1のところ及びⅢ.4.の項目、Ⅲ.6.3の項目については自己評定と異なる意見案となっております。

概要といたしましては以上となりまして、3ページ目以降につきましては、この場で個別にご紹介することは控えさせていただきますが、JAXA部会において各項目についていただいたご意見を基に、事務局で取りまとめさせていただいたものになってございます。

駆け足で申し訳ございませんが、JAXA部会の説明としては以上でございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。JAXAのほうでは7年が1期で、3年目の評価ということでございます。

ただいまの説明に関しまして、ご質問、ご意見などはございませんでしょうか。いかがでしょうか。

それでは、私から質問させていただいてよろしいでしょうか。今回、JAXAからの自己評価と比較して、マネジメント関連に関してS評価になっていると思います。この辺り、マネジメント関連を高く評価するというのはなかなか評価が難しいところがあったかなと思うんですが、この辺りの状況をご説明いただければと思います。お願いします。

【梅比良会長代理】 それでは、梅比良ですけれども、どういう議論でこうなったかというところだけをかいつまんでお話ししたいと思います。

これはご承知かと思うんですが、ASTRO-Hが失敗したときに、問題の1つとして、いわゆる1人のプロジェクトマネジャーさんが全てを見るというような格好になっていて、それが大きな原因の1つであったのではないかという議論がございました。それで、プロジェクトのやり方というのを分野ごとに分けてマネジメントするという体制がそのときに、半年か1年ぐらいの議論を通してつくられました。

そのときに、多分これですうまくいくよねという話があったんですけども、やっぱり結果が出てこないとなかなか評価できないという話があって、しばらくの間はB評定というような格好でした。というのは、いい案が出たけれども、その結果が出ていないということではなかなか評価は難しいという議論がございまして、いつかプロジェクトのマネジメントがうまくいったときに、きっとAなりSなりという議論がございまして、今回、その結果として、はやぶさ2号の話があって、これはほとんど問題なくすばらしくうまくいったということもあって、それは1つはあのときにつくったプロジェクトマネジメントのやり方がうまくいった、その1つの大きなエビデンスだろうということで、このうまくいったというのがS評定という結果になったという、そういう議論がございました。

以上でございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。よく理解できました。なかなかマネジメント関連というのは表に出にくいところですが、成果を裏づけたマネジメントを今回高く評価されたということですね。

【梅比良会長代理】 そういうことでございます。

【尾家会長】 そのほか、何か皆さんからご意見、ご質問はございませんでしょうか。

【小塚専門委員】 それでは、専門委員の小塚ですが、よろしいですか。

事務局へのご質問なのですが、JAXAの場合は4府省共管で、実績評価も最終的には4府省の間で協議するということですが、意見に出ていますような政策的な問題、具体的に申しますと、JAXA部会では、JAXAが少し守備範囲を広げ過ぎているのではないかとか、民間とのすみ分けということ考えたほうがいいのではないかという意見が私も含めて出まして、そのように書いていただいておりますが、こういう政策に関わることについて、恐らく府省それぞれのスタンスがある中で、どのようにしてこの意見を取りまとめていくのか、その辺りのプロセスとか考え方を教えていただけますでしょうか。

【尾家会長】 ありがとうございます。

なかなか難しい課題ですが、事務局、お願いいたします。

【太田課長補佐】 事務局でございます。

小塚先生、ありがとうございます。こちらは、今後のプロセスといたしましては、先ほど申し上げましたとおり各府省から、今回ご議論いただいたような審議会としての意見というものを持ち寄る形になってございます。その中で評定についてはある程度、4府省いますので、そこを見ながら決めていくことになるかなと思ってございます。

他方で、いただいたご意見そのものにつきましては、評定書になるべく記載できるよう進めていこうとしているところでございます。小塚先生からいただいている質問に対してはこのような回答になりますが、いかがでございましょうか。

【小塚専門委員】 小塚です。ありがとうございます。

おっしゃるように、評定とは違って、何というか正解のない問題、どちらを取るかという話になって、どちらが正しいかという問題ではないような気がしますけれども、部会の空気感などもぜひ伝えていただけましたらと思います。事務局へのお願いです。

【山口課長】 宇宙通信政策課の山口でございます。

小塚先生、コメントありがとうございます。官民の役割分担はとても大事な議論だと思ってございます。今回いただいた議論は、関係府省、4府省に確実に部会のご意見として伝えることは確かでございます。

それから、具体的にその後どう議論していくかということになりますけれども、そこは関係府省、それからJAXA自身がどう考えていくかということになりますので、まずはいただいたご意見を確実に伝えていくことはさせていただきたいと考えております。

以上でございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。では、そのようにお願いいたします。

そのほか何かご質問、ご意見はございませんでしょうか。

【村瀬専門委員】 すみません。専門委員の村瀬ですが、よろしいでしょうか。

JAXAの全体評価に関するご意見の中で、下から2つ目です。民間企業との役割の整理ですとか、資金をいかに効率的に使うかというお話がありますが、JAXAとNICTも同じ枠組みの中ではありますが、通信システム寄りのNICTと宇宙関連のJAXAということで、これからだんだん一緒にやる分野も出てくるんじゃないかと思いますが、昨日の日経新聞にあったように、月の水資源のセンシングについてJAXAもNICTも参加していくというプロジェクト

も立ち上がっているようですので、例えばセンサーとか通信に関連する部分をNICTの資金で民間企業に試作とか開発をしてもらったものをそのままJAXAが使えるようにしていくとか、そういう研究資金の活用を何か共同でできるようなことも考えてもらいたいんじゃないかなということにはちょっと感じたんですけども、何かそういうお考えがあるようでしたら聞かせてもらいたいと思います。

【尾家会長】 ありがとうございます。

ちょうどNICT、JAXA、2つの部会がありますので、その協業あたりについて、何か意見が言えればということみたいです。事務局、いかがでしょうか。

【山口課長】 宇宙通信政策課の山口でございます。ご意見、ありがとうございます。

まず、研究者同士の協業は、ご存じのとおり例えば光通信ですとか、テラヘルツも含めて、あとリモートセンシングはもう伝統的に両組織と一緒に研究開発して進めてございますので、そこは引き続き頑張ってくださいというメッセージかなと思ってございます。

それから、お互いの研究開発した技術を実用化して民間に技術移転して、それぞれ相互に使えるようにしようじゃないかということもおっしゃるとおりでございますので、恐らくそういった方向で、JAXAだから、NICTだからということ以前に、国研としてそこはやっていただくべきところですし、そういったところで目標設定と実績評価が重要ということになると考えてございます。ご意見ありがとうございます。

【村瀬専門委員】 村瀬です。ありがとうございます。

おっしゃるようになるべく上流のレベルから目標設定を同じ方向にしておいて、民間企業に作ってもらうときも無駄にならないようにしてもらおうとか、その辺を意識してやってもらうと資金的な効率も上がるんじゃないかと思います。よろしくお願いします。

【尾家会長】 貴重なご意見、どうもありがとうございます。

そのほかに何かご意見、ご質問はありますか。

【新田課長】 尾家先生、NICT部会の事務局のほうからも、先ほどのご意見に対して一言コメントさせていただきたいと思います。

【尾家会長】 ぜひ。

【新田課長】 NICTにおきましても研究開発の重要なパート、例えばテラヘルツの研究ですとか衛星通信技術の研究、光衛星通信とか量子情報通信の研究開発に取り組んでおります。これからの将来の衛星に必要な不可欠な研究開発ということでは、重要なパートをNICTとしても担っていると思います。

もちろん、実際に衛星バスと一緒に搭載するというようなところはJAXAとの連携とか、あるいは民間の通信事業者もあるかもしれませんがそのことの連携とか、同じ方向を向いての研究開発というのは必要不可欠になるかと思います。非常に重要なご指摘をいただいたと理解しておりますので、NICTのほうにもこのコメントについてフィードバックさせていただければと思います。ありがとうございました。

【尾家会長】 ありがとうございます。

2つの国立研究開発法人が持っている資産というんですか、それを最大限活用して成果の最大化を図っていくというのは大変重要ですので、そういった方向で何かご一緒にやっていただければなと思います。ありがとうございます。

何かそのほかにご質問、ご意見はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。大変貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。

それでは、JAXAの令和2年度におけます業務実績評価に対する意見につきましては、案のとおりご理解いただいたかなと思います。

総務省におきましては、関係府省との調整を進めていくなど、引き続き最終的な評価に向けた作業などをお願いいたしたいと思います。

なお、NICT及びJAXAの最終的な評価結果に関しましては、後日、事務局から委員及び専門員宛てにお知らせいただきたいと思います。ありがとうございます。

【藪井課長補佐】 かしこまりました。ありがとうございます。

(3) その他

【尾家会長】 それでは、最後の議題となりますが、その他、全体を通して何かありますでしょうか。

【藪井課長補佐】 ありがとうございます。事務局でございます。ご審議ありがとうございました。

すみません、事務局のほうから1点、追加で補足のご説明をさせていただきたいと思えます。

【古川企画官】 事務局でございます。技術政策課でございます。

先ほど、NICT部会をご審議いただいたときの事務局の説明で、1か所訂正させていただきます。知的財産、標準化を戦略的に推進するBeyond 5Gの新経営戦略センターの関係で

ございますが、こちらはNICTの外にあるとご説明いたしましたが、こちらは事務局がNICT
でございまして、産学官のプレーヤーが参画し、Beyond 5Gに係る知財の取得、国際標準
化を戦略的に推進する組織でございます。

以上、訂正いたします。

【尾家会長】 ありがとうございます。

何か皆様からこの機会に確認とか、委員の方、専門委員の方、ございますでしょうか。
よろしいでしょうか。

それでは、事務局からそのほかに何かありますか。よろしいですか。

【藪井課長補佐】 ありがとうございます。

本日のご審議を踏まえまして関係府省とも調整いたしまして、今後の評価の取りまとめ
作業を進めていきたいと考えております。

それでは、今後の予定をご説明させていただきたいと思えます。取りまとめました内容
は、それぞれ主務大臣の意見としまして、今年は8月末から9月頭頃をめどに独立行政法
人評価制度委員会に提出するとともに、公表するという流れになっております。

同時に、先ほど尾家会長からもご指示いただきましたが、最終的な評価結果として、別
途、事務局より委員の先生方にもご報告させていただきますので、よろしく願いいたし
ます。

また、事務連絡でございます。本日で議事のほうは全てご裁定いただきましたので、予
備として皆様にお時間をいただくようお願いしておりました8月18日、水曜日についまし
ては開催しないということにいたしますので、ご了承いただきますようお願い申し上げま
す。

また、本日の議事録につきましては、後ほど事務局から皆様にご確認をお願いさせてい
たいただきますので、よろしく願いいたします。

事務局からは以上でございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。

今年度最初の会議ではございましたけれども、今年度行う国立研究開発法人の評価とい
う意味ではこれが最後になるとのことです。ただし、中長期目標の変更などほかに審議会
にかけるべき案件が出ました際には、またこの審議会が開催されるということでありま
すが、計画としては最後になるようでございます。

閉 会

【尾家会長】 では、以上をもちまして第14回総務省国立研究開発法人審議会を終了いたします。本日は大変貴重なご意見、たくさんありがとうございます。次にお会いするのは来年度になるかもしれませんが、またお会いできることを楽しみにしております。本当に今日はありがとうございました。